



工藤正司市長

日本遺産認定にあたって



行田のシンボル「忍城」



ノコギリ屋根の工場(株イサミコーポレーション)



「忠次郎蔵」のある蓮華寺通り



熟練の技術が求められる「つま縫い」の作業

祝 日本遺産 Japan Heritage

これまでのまちづくりが高く評価されました!

「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が、
県内初の日本遺産に認定!!



4月28日、平成29年度日本遺産に認定された自治体の代表者が参加し、文部科学省で認定証交付式が行われました。本市からは工藤市長が出席。松野文部科学大臣から認定証を受け取りました。
今回の認定は、本市の歴史・文化遺産、市民や関係者の取り組み、そして、国や県の補助金など有利な財源を活用しながら着実に続けてきたまちづくりが総合的に評価されたものです。
ここでは県内初となる日本遺産認定について説明します。

日本遺産(Japan Heritage)とは

文化庁によって平成27年度に創設された新しい文化財制度で、地域に点在する史跡・伝統芸能など有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーとして「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定するものです。歴史的魅力に溢れた文化財群を地域主体で総合的に整備・活用し、世界に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを目的としています。今年度認定の17件を含めて54件が日本遺産に認定されています。

認定されたストーリーの概要

忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現します。行田足袋の始まりは約300年前。武士の妻たちの内職であった行田足袋は、やがて名産品として広く知れ渡り、最盛期には全国の約8割の足袋を生産するまでに発展しました。それとともに明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていきました。今も日本一の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵等歴史的建築物が残り、趣きのある景観を形作っています。

構成資産

本市の日本遺産ストーリーの構成資産(文化財)は39件で、内訳は史跡4件(国指定1・県指定2・市指定1)、有形文化財3件(未指定3)、建造物26件(市指定2・国登録5・未指定19、総棟数56棟)、有形民俗文化財2件(国登録1・未指定1)、無形民俗文化財4件(未指定4)となっています。